

角觥草

〔大和本草九雜草〕知風草カカフ草 葉モ莖モ茅ニ似タリ野ニアリ倭俗曰其クキニ節アレバ其年大風フク本ニアレバ春フク中ニアレバ夏秋フク末ニアレバ冬大風フク二節アレバ二度フク節ナケレバ其年大風フカズト云節ノ文ハ人ノ指ノフシニ似タリ大明一統志瓊州府土産知風草南海有草叢生如藤蔓土人視其節以占一歲之風每一節則一風無節則無風廣志所載亦與此同今本邦ニ大風ヲ試ルハ非蔓草

〔新撰字鏡草〕旋復花須万比久佐 本云早人草

〔和漢三才圖會九十四末〕角觥草カカフ草 力草本名 末詳

按角觥草原野濕地有之葉布地叢生似忍凌微扁似石菖而色淺秋起莖嶺作穗青白色可有細子而不見其莖扁強健長六七寸小兒取莖縮穗結如繩而用二箇一插其禴ムスビ兩人持莖相引而切方爲輸以戲因俗名相撲取草自茂盛爲農圃之妨引根強難拔因名力草

一種相似而莖葉穗俱瘦者俗以爲角觥草之雌

〔倭訓栞後編十〕すまひぐさ 金葉集赤染衛門集などに見えたり白慈艸なるべし俗にすまひぐさといふ西偏にていふものはかやつり草也新撰字鏡に旋覆花とよめり常樂會の舞人すま

ひ艸を面々にとりてかざす事ありとぞ

〔嬉遊笑覽十二〕すまふ取草にて童ども勝負を争ふ戲あり略中物類稱呼に莖は畿内及び近江加

賀能登又東海道筋總てすまふ取草と云ふ江戸にてすみれといふ略中又東武にてすまふとり

草と云別種あり江戸の鄙にてははぐさと呼草の穂に出たるを云尾州にてやつまたと云是也

貞砂が足を空なるすまふ取草といひし附句合もむかし語となりぬといへり本草啓蒙略中江

戸にて相撲とり草と呼ものは詩經名物辨解に荈小雅鹿朱註荈草名莖如釵股葉如竹蔓生郷名

ヒシハ云々此物野外間ありヲヒジハメヒジハの二種ありといへり此説誤れり朱傳は陸璣が